

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 2月25日

事業所名 だいじ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		・子ども同士の相性や本人の好きな活動を入れる工夫をしている	引き続き適切なスペース利用ができるよう工夫する
	2	職員の配置数は適切である	3	2	・平日休みのスタッフがいる日の配置が困難になるため、工夫している。	・1対1の対応を要するために配置困難になっている面もあるので、スタッフの知識・技能の向上を図り、対応力を高めるように努める。 ・送迎車の増配を検討する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	・トイレ指導を丁寧に行っている。その過程で、トイレのサイズなど職員間で議論になった。	・子ども用トイレの鍵について検討する。 ・家庭と同サイズのトイレで生活技能の練習を図っていることを職員が理解して指導力を向上させるようにする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	・職員が話し合いをしようと努めているが、時間が取れないことも多い。	・情報共有が不十分になることもあるため、職員全体での話し合いを持つように努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		5	・実施中である	・ご意見等をより良い処遇につなげていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		5	・開設初年度のため、これから実施予定	・広くご意見を募り、より良い処遇につなげていきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		・実施について検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		オンライン研修、外部講師を招聘しての研修等を行っている。	・研修実施に加えて、専門機関等への相談も随時行えるようにしたいが、各機関の齟齬を適切に整理するように努める。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	2	公認心理師、作業療法士が評価を行っている。	評価、支援計画への反映を標準化してより良い支援にしていこう努める。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		5		標準化されたツールを検討する
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		・情報交換の時間に振り返って考えている。	・もっと情報交換をする時間を取りたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	3	・子ども達は変化に敏感なため、少しずつ試している。	・子ども達は変化に敏感なため、少しずつ試している。 ・特性上、固定化しがちな子があるので、支援の工夫をしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		・製作、おやつ作り、外出等 ・長期休暇中のグループ活動、外出等	・一層楽しめるような活動を工夫していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している	3	2	・土曜日や長期休暇などには集団活動を組み込んでいる。	・特性上集団活動がまだ難しい。職員の知識・技能を向上させて取り組みを増やしていきたい。 ・土曜日や長期休暇などには集団活動を組み込んでいるが、平日はあまりできていないのが課題である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		5	・打ち合わせの時間はとれているが、ボードやノートを使って工夫している。	・打ち合わせの時間がなかなか取れないため、連絡の手段を工夫したり、時間を合わせる工夫をする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		5	・顔を合わせるタイミングでこまめに情報交換をしている。	・退勤時間がまちまちのため、振り返りの時間が取りにくいので、工夫していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・記録を徹底している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		・相談支援専門員の協力により、モニタリングを適宜行っている。	・保護者との日程調整などが課題である。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5			・より良い支援ができるように知識・技能の向上を図る。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	4	・主に児発管が参画している。時に応じて直接支援職員も参画している。	・現場スタッフも参画する、現場スタッフに適宜情報を伝達するよう努める。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		5	・学校が情報交換や助言等の助力をして下さっている。	・さらなる情報共有に努める。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		5	・対象児童なし	・対象児童なし

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	・情報共有できている。	・より良い支援のため
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5	・対象児童なし	・対象児童なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	研修、随時の助言指導などを得られている。	・直接処遇職員がもっと助言を受けたいと希望しているが、専門機関等によって指導内容に齟齬があるため、情報の整理が必要。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	法人内の仲よし会との交流ができています。	更に交流を重ね、仲よし会への移行へとつなげていけるようにしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5		・新型コロナウイルス感染防止対策のため中止につき機会なし。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・お便り帳や送迎時にしている。 ・お便り帳を通して連絡を取り合っている。必要ときは電話連絡もする。	・更に情報伝達の工夫をする。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5	発達障害者支援センターによる研修を持った。	・研修で学んだことを支援につなげていくよう努める。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	3		・児発管が行っているが、職員への周知が不足していたため、職員間の業務分担や情報共有に努める。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			・職員自身は行っているつもりであるが、一層の知識・技能の向上に努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		・保護者の集いへの参加や支援、事業所の保護者の集いを持つよう努める。休業日のお預かりの要望もあるが職員配置の都合上難しくなっている。 より良く対応できるよう努める。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	・電話・お便り帳、送迎時に話したりしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・利用日カレンダー及び長期休み前にだじ便りを発行している。	お便りやカレンダーを使って発信に努める。
	35	個人情報に十分注意している	5		職員は個人情報保護に留意し、外部からの来訪者がある際には利用児の名前を隠している。	「見学の方が来るときに名札を隠すなど必要だと思います。」とのご意見があり、配慮してきたことが知られていないか、または落ち度があったかもしれないので、十分な個人情報保護に努めるようにする。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		新型コロナウイルス感染防止のため、機会が無かった。情勢を見て地域との連携に努める。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		5		・周知不十分であったため、改善する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	3		訓練を実施しているが、課題もあるため、対応していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・ガイドラインの読み合わせ等を行っている。	・更に理解を深めるように努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		5		対象となる事象はなかったが、取り組みを行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			対象児がなかったが、対応できるようにする。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		5		行動の記録と対応の話し合いを行ったが、ヒヤリハットとして認識していなかったケースがあった。改善する。	